



SPECIAL
FEATURE

3rd
PART

The Tap is
the Most Important Part!

交換、メンテナンスから プレーへの影響まで

道具として、唯一ボールに触れる部分がタップ。タップの取り付け方、メンテナンス方法、タップのRが手球に与える影響——。ディープなこだわりを、タップメーカーであり、交換・メンテナンスの達人として業界で名高い『NAVIGATOR JAPAN』(ナビゲーター・ジャパン)の堀内良太郎氏に聞いた。

取材・文/栗本由美 協力/NAVIGATOR JAPAN

**タップ交換は2カ月に1回
撞いても撞かなくても劣化する**

——タップとはどういうものなのでしょうか？

堀内(以下、堀) タップは、自動車でも例えるとタイヤのようなものです。タイヤが消耗しているのは快適なドライビングはできません。ですから、身近にタップを交換できる場所があることが望ましいですね。手で付けるか機械で付けるかについてはどちらが良いと一概には言えませんが、いつも同じように付けられる機械が良いでしょうね。ただ、単層タップなどデリケートなものは手で付けたほうが良いです。今でも根強い単層タップファンはいますよ。実は僕も単層タップが好きなんです。

——ヒネリはタップの種類によって変わるものですか？

堀 スピンの量は革の素材の違いではなく、チョーク乗りの善し悪しによります。摩擦係数 \parallel チョーク乗りで、チョークがどれくらい乗っているかでスピンの量が変わります。

——タップはどのくらいの頻度で交換するべきですか？

堀 長持ちすれば良いという訳でもありませんですよ。タップメーカーからすると、MAX2カ月にしてほしいですね。プロはだいたいそのくらいの頻度です。2カ月に1回交換すると、ルーティンを確認しやすいんです。1カ月でこのくらいになったから、ミスキューするように

なる、とか。ツルツル

たから交換する、というのでは遅いんですね。そんな状態で撞き続けていたら先角が割れてしまったりと、他のパーツに影響することもあるので、早め早めの交換をお勧めしますね。撞いても撞かなくても交換すべきです。自動車におけるタイヤもそうですが、使わなくても劣化します。タイヤの場合は、使わないとすり減ることはないですが、ゴムに亀裂が入ってバーストしやすくなったりしますしね。

——アマチュアでもその頻度で交換すべきでしょうか？

堀 アマチュアで「5年以上使ってるけど大丈夫なんだよね」などという人がいますが、これは実はちよつとパンクしてるとんですよ。パンクとは、使い込まれて寿命を迎えたタップが硬さを失った状態のことです。積層タップの場合、ずつと使っていくと詰まってきた後、戻りが出るとスプリング状になってしまいます。そうするとそれ以上硬くならずそのまま使い続けることができる場合がありますよ。これはたまたまなんです、普通はこういう状態にはならないです。プロが2カ月に1回ということを念頭に、自分ほどのくらい撞くか、どのくらい撞いたらタップがどんな状態になるかをチェックして、自分なりの交換ペースを見つけてほしいですね。

タップ交換は上手な人に任せる

——タップ交換は自分でやるべき？

The Method



タップの取り付け方 手動編

今ではタップ交換ツールや旋盤と呼ばれる工作機械での取り付けがメジャーとなってきつつあるが、手動でのタップの取り付け方についても丁寧に一から教えてもらった。

Step:0 準備するもの



- ① 新しいタップ
- ② パイプカッター
- ③ カッターの刃
- ④ 先角水平君
<https://shoptop.wakaiss.com/product/ta-s008-c/>
- ⑤ サンドペーパー (320番、400番)
- ⑥ メラミンスポンジ
- ⑦ 瞬間接着剤 (ゼリータイプ)
- ⑧ ヤスリ
- ⑨ TIP CRYSTAL (読者プレゼントあり)
- ⑩ ラシャの切れ端または眼鏡拭き
- ⑪ カッターマット

Step:1 古いタップを取り外す



パイプカッターまたはホースカッター (市場価格1,000円前後) で古いタップをカットする。きっちりと落とさず、少しタップの革が残る程度の位置でカットする。



残ったタップをカッターの刃で削り落とす。先角を傷付けないように、かつギリギリのところまで削る。



カッターの刃を取り付けた「先角水平君5.0」(3,850円) という道具を使って水平を出す。シャフトを差し込んで回せば良い。



タップの革がまだ残っている場合はカッターの刃を直角に当て、前後に動かしてこそげ落とす。水平君がない場合は、余分な革をあらかじめ削り落とした後、この工程に進む。



タップが綺麗に取り外せた状態。ここまでできたら、水平が出ているかどうかを確認しよう。水平が出ていないまま、浮いている側で球を撞くと、タップが飛んでしまう。



カッターの刃を当て、シャフトを回してカッターの刃も一緒に回れば水平状態。シャフトだけが回ってしまう場合は水平が取れていないので、もう一度水平を取り直す。

堀 キューメーカーやタップメーカー、ビリヤード場のスタッフやプロなど、上手な人に任せるのが良いと思います。特に旋盤(35ページ参照)を使つての取り付けがお勧めです。

側面が膨らんだ時はどうすればいいですか？

堀 うーん、難しいですね。自分でやるのはお勧めできません。ちよつとでもタップが先角より内側に入つちゃうと絶対ダメです。大型車に軽自動車のタイヤを付けるようなもので、明らかにキューの性能が損なわれますから。なので、タップを取り付けてもらった人にメンテナンスもお願いするのがいいでしょう。

— Rについて教えてください。どの程度Rを付けるのがいいのでしょうか。

堀 どんなにRを付けても、真ん中ばかり撞く人はほとんど平らになっていきま。逆にあまりRを付けていなくても、端を撞く人はだんだんRが付いていきま。Rをたくさん付けている方が硬くなりやすいですね。なぜかというところ、力が分散するからです。Rの付け方は本当に好みですね。Rがきつければきついはほど手球のコントロールが難しくなります。その反面キュー切れは良くなるので、Rをたくさん付けるのは上級者向けですね。初心者や一般的なアマチュアは直進性が大事なので、10円玉かせいぜい100円玉ぐらいで十分でしょう。

— エッジを作るメリットは？

堀 エッジとは、側面とRの境目のことですが、エッジを作っておくとタップ

が硬くなりやすいです。キューを回しながらチョークを塗ることでエッジを作ることもできます。チョークを塗ることでタップは減っていくものなので、エッジをちゃんと作って側面を磨けば音も良くなります。

**タップ長持ちの秘訣！
使用後はチョークを拭き取る**

— タップを長持ちさせる方法は？

堀 撞き終わったら、キューケースにしまう前にチョークを拭き取ることでですね。そうしないと、湿気を帯びてタップが硬くなるんです。ホームのビリヤード場に立ておく場合でもそうです。その場合、できればシャフトカバーなどをかぶせておく方が良いでしょうね。エアコンの風が当たったりして、どうしても木は湿気を吸いますからね。

— タップにざらつきがなくなった時はどうすればいいですか？

堀 ヤスリで削るのが良いですね (NAVIGATOR 製 Cue Tip Repair Zini など)。積層タップの場合、削って積層の1枚を落としたらこんなコンディションになる、というのを自分で把握しておくんです。2枚落とすとこのぐらいになるからあと何日ぐらい持つな、などとかわかるようになっておくことが大事です。毛羽立たせるために下から上に削る人もいますが、上から下に削る方がタップには優しいです。また、少し傷を付けた場合の場合は、バットを床に付け、シャ

だわる！

フトを太ももに乗せてタップに対して斜め45度に30mmの平らな方を当て、シャフトを1回転させるだけでもOKです。普段のメンテナンスはこれだけで十分です。表面をざらつかせてチョークを1回付け、平面の方で軽く叩くとチョークが隙間に入ってくれて、チョークが乗りやすくなります。

— シャフトとタップの相性は？

堀 もちろんあるんですけど、パターン化は難しいです。実はキューにはそのキューの特徴があつて、そのキューに合うタップって言うのがあるんです。硬いキューには硬いタップが良い、という訳でもないし、キューを前にたくさん出す人とそうでない人でも違いますし。ほんとに一概には言えない、というのが正直なところなんです。

— では、タップの選択はどうすれば良いのでしょうか。

堀 僕たちタップメーカーはこれまでずつと足算をしてきたんです。もつともつとキューが切れるようになって、でもキューの性能が上がってきた今は引き算ですね。キュー性能を邪魔しないようにスタンダードなものがよく出てますね。なのでまずは中間の硬さのMをお勧めします。そうすればそれを基準にして「もつと柔らかいのが良い」とか「もう少し硬い方が好みだ」とかわかりやすいので。

— タップメーカーとしてのこだわりはありますか？

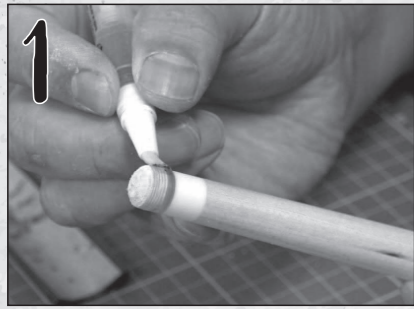
堀 本来なら外注するであろう工程もすべて自社で行っている点はこだわりですね。現在、当社のタップはほとんどが海外で使われていますが、これまで失敗しながらも作り続けてきたNAVIGATORのタップを、日本の皆さんにも試していただけたらなと思っています。



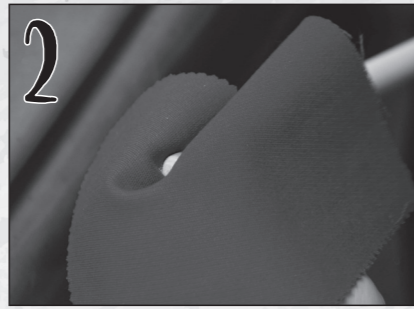
Ryotaro Horiuchi
堀内 良太郎

メインであるタップから、チョーク、グローブ、さらにはキューに至るまで、様々なビリヤード用品の製造卸販売を手掛ける『NAVIGATOR JAPAN』の代表取締役。

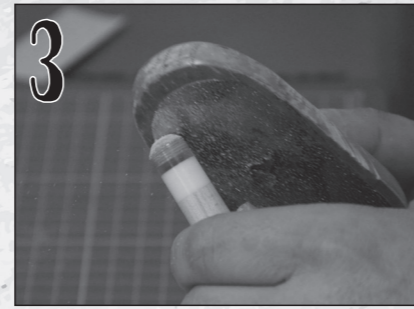
Step:4 → 最終仕上げ



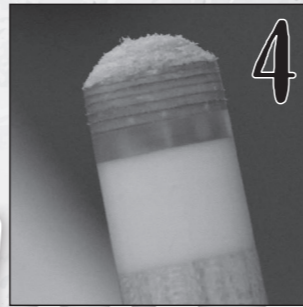
TIP CRYSTALを側面に塗ってきれいにする。後ろをカチカチと回せば液がハケ部分に上がってくるので、マニキュアのように塗っていく。先角に付いても問題ない。水分のほか、革の保護材も入っており、害のある成分は入っていないので安心だ。塗った後は指で馴染ませる。



ラシャの切れ端や眼鏡拭きで、少し力を入れて磨く。前ページの側面をサンドペーパーで磨くところからここまでの作業は繰り返すことにより、より美しくなり強度も増す。



ヤスリを使って側面とRの境目(エッジ)を立てる。

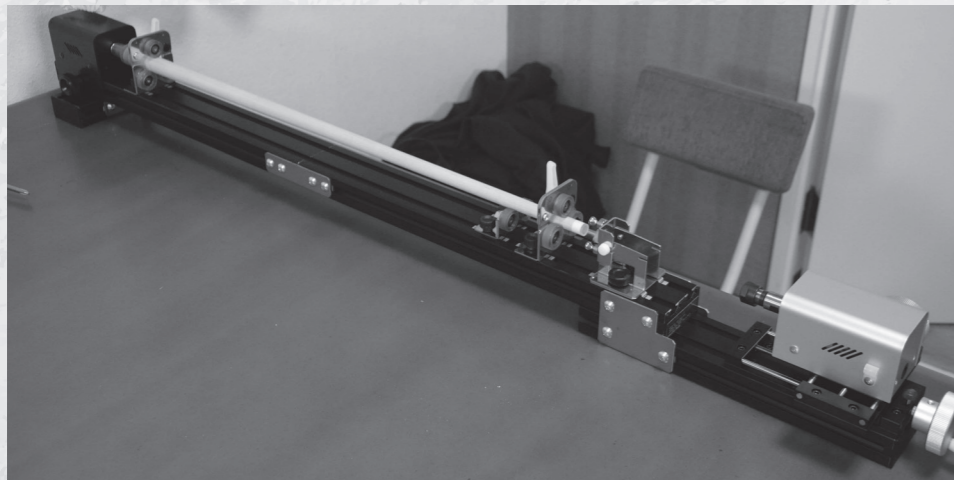


これで完成!

By MACHINE 旋盤編

タップの取り付け方

旋盤と呼ばれる工作機械をビリヤード用にカスタマイズした「デザイヤ」(製造・販売:若井製作所)を使った、タップの取り外しと取り付けを実演してもらった。



これがビリヤード用旋盤「デザイヤ」。加工すべき物(バットやシャフト)を回転させ、エンドミルと呼ばれる刃物を当てて切削加工を行う。タップ交換の場合は、シャフトをセットし、回転させる。反対側のエンドミルも回転させる。回転させる速度や位置を調節しながら削っていく。

Step:1 → 古いタップを取り外す



シャフトとミーリングの両方を回す。エンドミル(刃の部分)はタップの中心から徐々に端に寄せていくが、寄せすぎるとタップが飛ぶので0.7mm程度は内側のまま先角の面(つら)まで削っていく。



タップが弾き飛ばされた後しばらくそのまま回転させておくと水平も取れるので楽だ。



Step:2 → 新しいタップを接着する



タップの接着面(ロゴがない方)を400番ぐらいのサンドペーパーでこすって平らにする。



メラミンスポンジで削りカスを落として少し水分を含ませ、机のような硬いところでこすってつるつるピカピカにする。



先角(または座)に当て、人差し指で押さえてシャフトを回す。一緒に回れば水平が取れている。



ゼリータイプの瞬間接着剤を惜しみなく先角側にもタップ側にも付ける。



タップを先角に取り付ける。この時、回しながら両方のセンターがきちり合うように調整する。回しながら付けることによって接着剤をまんべんなく行き渡らせる。



人差し指でぐっと押さえて接着剤を定着させた後、机などに垂直に落とし、変な音がしないか確認する。そして2~3分放置する。

Step:3 → タップを成形する



ヤスリや専用の道具でRを付ける方法もあるが、デリケートな部分なので最初の成形はカッターの刃を使うのが一番いい。フルーツを剥くようなイメージでせん状に削っていく。カッターの刃は動かさず、シャフトを回転させるのがコツだ。



カッターであらかた削ったら、粗いヤスリで形を整えていく。



このような状態になればRは完成だ。側面を後で削るのは、できるだけ削る量を少なくして、積層がパンクしないようにするためだ。



革漉き包丁かカッターの刃を使って側面を削る。これもシャフト側を回しながら削っていく。



320番あたりのサンドペーパーで側面を磨く。側面がでこぼこになっていたり傷が入っていたりすると異音が出る場合もある。側面をツルツルにするのは音を良くするためでもある。慣れていない人は、先角にマスキングテープを貼っておけば傷付くこともない。



Special Information

手動交換から旋盤による、
プレータップ、樹脂タップの交換
までを詳しく紹介!



7月号特集
連動動画!

本特集に登場していただいた、タップの達人、
堀内良太郎氏に、プレイヤー自身でもできる
タップ交換、そして、『デザイヤ』を使用したプ
レータップ、樹脂タップの交換方法を詳しく
紹介する動画です! ぜひご覧ください!

タップに こだわる!

Check it out!
動画視聴は
こちらから!

視聴方法

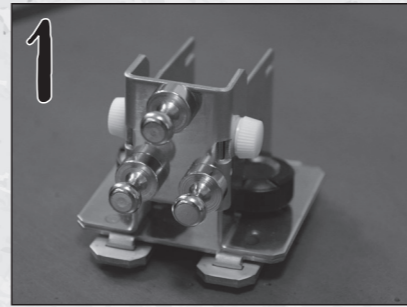
下記URLまたはQRコードより、専用ページに
アクセスし、ID、パスワードを必要事項をご
記入ください。返信メールにて特典映像が
ご覧頂ける視聴ページをご連絡いたします。



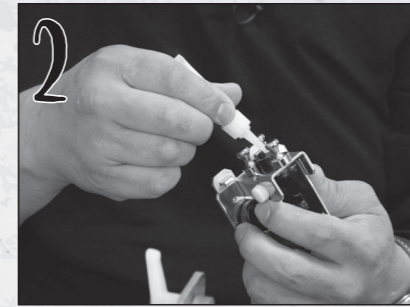
URL : <https://www.billiards-cues.jp/wp/sp2207/>
ID : cues213sp パスワード : sw58yqC

タップの取り付け方 旋盤編

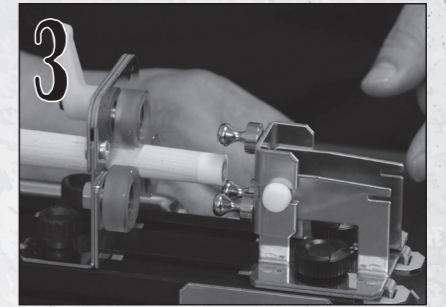
Step:2 → 新しいタップを接着する



「デザイヤ」用の部品「チェックメイト」。チェスの駒のような形をした3つの部品でタップを固定する。磁石なので微調整しやすく、接着前にセンター出しができる。

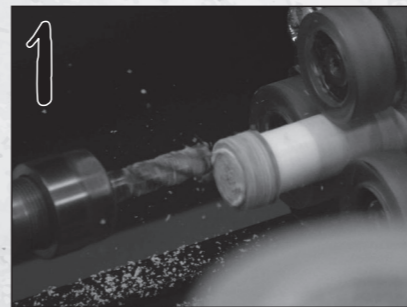


チェックメイトをデザイヤにセットし、シャフト(先角)の中心とタップの中心がぴったり合う位置に調整する。決まったらチェックメイトを一旦外し、タップと先角に接着剤を付ける。



再度チェックメイトをデザイヤにセットし、先角とタップを接着する。

Step:3 → タップを成形する



接着が落ち着いたら、Rを付ける側のタップのエッジを落としていく。シャフト側、ミーリング両方を回転させ、センターから外に開きながら前に押す。



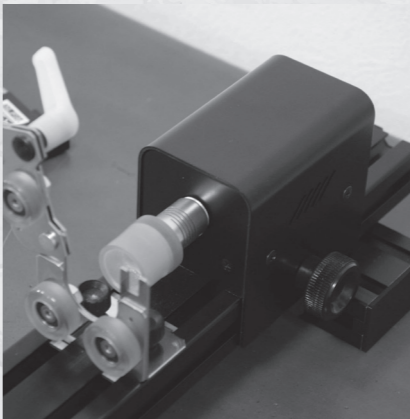
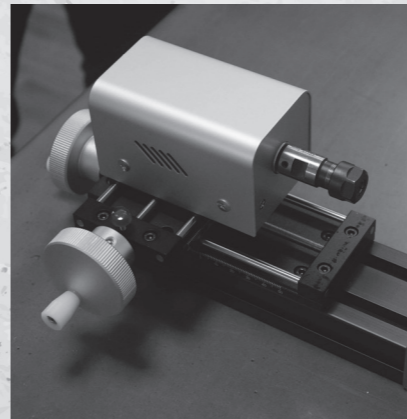
エッジが取れたら、ミーリングを止め、シャフト側だけ回した状態にし、ナイフやカッターの刃などでRを付けていく。ある程度Rが付いたら、ヤスリを使って整える。



最後に側面を削る。タップの端にエンドミルを当て、少しずつ削っていく。デザイヤを使う場合も、先角にはマスキングテープを巻いて保護しておいた方がよい。

Check! Navigator, If井製作所から どどーんと読者プレゼント

今回タップ交換で使ったつや出しの「TIP CRYSTAL」、グローブなどを合計10名様にプレゼント! さらに、ビリヤード場様限定で「デザイヤ Ver.2.0」(移動式モーターユニット、ミーリングキット付き)を1名様にプレゼントします。詳しくはP115のプレゼントコーナーをご覧ください!



カッターの刃やヤスリで最終仕上げをする。その後は手動の時と同様、メラミンスポンジで汚れを落とし、サンドペーパーやTIP CRYSTALでつや出し、ランシャの切れ端で磨けば完成!